

石田退三 "時・人・所"を得て大人となり、戦後のトヨタ自動車の建直しをして"トヨタ中興の祖"となった。

いしだたいぞう

初の対等条約1888 = 愛知県知多郡小鈴谷村大谷(常滑市)で、代々有数の農家沢田徳三郎の五男に生まれる。母はこう。

帝国憲法発布1889 = 1歳：この年市町村制が実施されたのに伴い、父が初代村長に就任。

負けず嫌いで、学業も腕白ぶりも、抜きん出ており、

日清戦争始・1894 = 6歳：尋常小学校に入学。

八幡製鉄始・1897 = 9歳：

子規句歌革新1898 = 10歳：優秀な成績で卒業し、鈴浜高等小学校に進むが、

ビ7ノ国産化・1900 = 12歳：父が死去、以後、兄4人・姉1人とともに、母の手で育てられ、

教科書疑獄・1902 = 14歳：卒業間近になり、進学できず丁稚奉公に出されるどころ、8つ年上で三井物産に勤める母方の従兄「児玉一造」が立寄ったことから、その支援を受けて、滋賀県立彦根中学校に入学することになり、児玉家に寄寓、以後、一造に兄事。身体を鍛えようと、柔道部、剣道部、テニス部を転々とするも合わず、ボート部に入ってようやく適性を見出し熱中、

日露戦争終・1905 = 17歳：

満鉄発足・1906 = 18歳：ついに正選手となり、学業成績も良かったことから、部のリーダー、コックスになり、レースにも優勝。

韓国反日暴動1907 = 19歳：卒業。学費いらない水産講習所と海軍機関学校を受験するもいずれも不合格で、代用教員勤めるうち、

アヲキ創刊・1908 = 20歳：徴兵検査で、甲種合格通知に驚くも束の間、補充兵役の輜重輸卒に変更で、兵役から解放され、**思案の末**、**商売人**になろうと退職し、紹介された京都の河瀬洋家具店に就職。古参店員いない時、帝大総長室からの電話で注文聞きに出され、大先生菊池大麓と直接話し、工場に指示してできた製品を納入すると、気に入られ、以後、指名で次々と注文されるようになって、自信がつくとともに、店からも一目置かれ、

明治天皇没・1912 = 24歳：店主に進言して開設された大阪支店店長として赴任するも、大阪商人に翻弄されて不振かつうち、

大正政変・1913 = 25歳：(児玉)伯母から養子縁組を強く勧められ、姓名判断が大吉と出てようやく決心。近江八幡の店の一番頭だった石田新平の遺した娘に婿入り結婚、石田姓となり、河瀬洋家具店も円満退職。一造の勤めで、上京して呉服問屋(市橋商店)に勤めるも、車引いての外回りのつらさに耐えられず、休暇理由に養家に戻る。

21ヶ条要求・1915 = 27歳：(児玉)伯母が死去して虚脱状態のなか、一造の斡旋で、名古屋の(服部商店(カネカ))に入社、主要ポストをまかせられ、世話になった一造の弟利三郎が豊田佐吉の婿養子となってまもなく、上海に新設する出張所長になることが決まり、英語・中国語、綿布商売について猛勉強して、現地に赴任。水を得た魚のように活躍するうち、服部社長が親交する豊田佐吉と出会って気に入られる。

ロシア革命・1917 = 29歳：

本格政党内閣1918 = 30歳：香港で働いたのち、帰国。

大阪支店に勤務、その経験から、本社に戻る、_(服部商店綿花加工部)を設置して部長となり、ドル箱になったのも束の間、大きな損失を出し、一造に救われるが、(服部商店)全体が危機に陥り、

服部社長が自殺、

大暴落・1920 = 32歳：

原敬首相暗殺1921 = 33歳：

護憲三派圧勝1924 = 36歳：

以後、支配人三輪常次郎のもと、社員とともに一丸となって働き、(服部商店)の再建が成ると、

金融恐慌・1927 = 39歳：母が死去。***独立を決意するも、一造に相談すると、それは無理と、利三郎が常務務める豊田紡織に入社せられ、初代大阪出張所所長となる。**

海軍軍縮条約1930 = 42歳：**頼りにしてきた一造が急逝。豊田佐吉まで死去する最悪の年に。調査を命じられて、インド出張、**

滿州事変・1931 = 43歳：**帰国して、本社付きとなり、**

国際連盟脱退1933 = 45歳：

新工場の建設の用地買収を任されるが、豊田自動織機製作所自動車部発足のための新工場建設で資金が回せなくなったという理由で、突然中止となった上、拳母工場(のちトヨタ自動車本社工場)の建設に当てられたことから、しばらくは自動車製造に対して(豊田喜一郎に対しても)反対

二二六事件・1936 = 48歳：

豊田紡織監査役に就任、同時に社長が利三郎が親交する青木染工場監査役にもなる。

日中戦争始・1937 = 49歳：**豊田紡織取締役に昇格。**

自動車部からピストンリングを探して欲しいと頼まれた際、本田宗一郎と出会い、その製作を依頼。本田の会社東海精機は大きくなるが、三河地震で壊滅的被害受け、豊田自動織機製作所に売却される。

大政翼賛会・1940 = 52歳：

豊田紡織の南工場から出火し全焼、

日米開戦・1941 = 53歳：

刈谷に本社工場のあり、政府指令により軍需産業に転換した**豊田自動織機製作所の常務取締役に配転、**

敗戦・1945 = 57歳：

敗戦となり、***専務に昇格。再建のため、涙ながらに従業員を整理してまもなく、GHQの許可で、自動織機製作に復帰すると、注文が殺到、従業員も復帰から増員となるも、**

新憲法施行・1947 = 59歳：

豊田全事業が財閥解体の指定受け(三井財閥側の対象トヨタ自動車工業は別)、全て分離され豊田の名が消され、利三郎は公職追放となり、

極東裁判判決・1948 = 60歳：

唯一名が残された豊田自動織機製作所の社長に昇格。結成された組合からの要求を断固拒否し、かえって結束、パキスタン・インドからの引合いがあると、GHQに許可求め、安価で性能良い紡織を、他社に先駆けて輸出、引続き注文を得て、いち早く立直る。

朝鮮戦争始・1950 = 62歳：

***トヨタ自動車工業の労働争議が激化、社長の喜一郎はじめ経営陣が辞任すると、利三郎に要請されて、社長に就任。分離したばかりのトヨタ自動車販売の神谷正太郎社長からも信頼され、朝鮮戦争特需が起きると、日産自動車といすゞ自動車との入札合戦に勝利し、急速に業績が回復。**

独立回復・1951 = 63歳：

メデー事件・1952 = 64歳：**喜一郎・利三郎が相次いで死去するなか、自動車業界はもうけ過ぎていると、参議院の委員会に呼出された際、大見得を切って、国民のための乗用車製造に乗出し、トヨペット・スーパーの試作に着手し、**

TV放送始・1953 = 65歳：

早くも完成して、発表会を開き、

自衛隊発足・1954 = 66歳：

乗用車性能試験に参加、日産のダットサンはじめ国産・外車入り乱れるなか、満点に近い好成績で評判、以後、一気に量産体制に入っていく。技術本部(トヨタ・テクニカル・センター)も完成。

55年体制始・1955 = 67歳：

トヨペット・スーパー発展させたトヨペット・クラウンを発表し、世間を驚かし、爆発的人気を得、京大のカラコルム・ヒンズクーシ学術探検隊に、テストを兼ねて、BJ車2台を提供。

国連加盟・1956 = 68歳：

小型のトヨペット・コロナの発売開始。メキシコ政府との合併で創立されていた(メキシコ豊田)の工場が竣工し、渡墨するなどして、'トヨタに石田あり'が定着、多数の公職に就くようになり、この間、さまざまなタイプのトラック、大小のバス、消防車、パトローカーなどで、次々新車、さらに、自衛隊特需もあって、月産台数が飛躍的に増大。朝日新聞主催のロンドン~東京五万キロ走行、

なべ底不況・1957 = 69歳：

ついに、両陛下の拳母工場への御成りとなる。メルボルンでのモービルガス・ラリーで好成績収めると、神谷と共同で、(米国トヨタ自動車販売)を設立し、日本車の先陣切って、アメリカ輸出を開始、

イスタトラーメ・1958 = 70歳：

安部闘争・1960 = 72歳：

成績不振のままの(メキシコ豊田)を見切り、解散。名古屋大学に寄付した豊田講堂が完成。公職がますます増えたところに、愛知製鋼社長木村富士信社長が急逝して後任引受けるなどするため、副社長中川不器男に*社長を譲り、会長に退く。以後、少しずつ関連会社の要職も辞めて行き、****

1961 = 73歳：

輸出振興交渉のため、日本繊維機械協会会長として、会員ら率い、インド・パキスタンに出張。

全国総合計画1962 = 74歳：

全共闘ビーク・1969 = 81歳：

大阪万博・1970 = 82歳：**勲一等瑞宝章を受け、**

ドルショック・1971 = 83歳：

相談役に就任。

革新大敗北・1979 = 91歳：

枥錦(春日野親方)と親交、画家和田英作を尊敬する、最後の財界風流人として、**没した。**

岡戸武平「闘志乃王冠」、